



さいたま市生きもの調査の仲間(調査員)募集しています

Q 調査員になるにはどうしたら良いのでしょうか。

研修を受けると調査員として登録され、調査にご参加頂けます。

Q 調査はいつすれば良いのでしょうか？

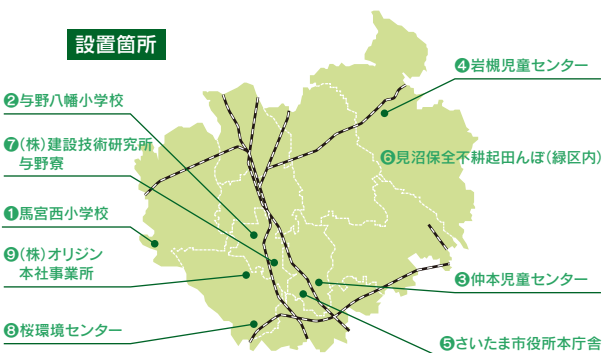
4月～10月の間、月2回程度です。調査日や時間は自分で設定できます。1回に要する時間は30分程度です。

Q 生きものを見つけるのは難しいですか？

親しみやすいチョウとトンボのみですので、難しくはありません。

Q 調査場所はどこですか？

誘致場所9カ所の中で、近くの設置場所を選んで調査をしてください。希望があれば、自宅の近所にもトンボ池等を設置することができます。



※本調査は、「さいたま市環境基本計画（改訂版）」のさいたま市生物多様性地域戦略に基づき行っている、市民参加型生きもの調査です。市民の生物多様性への理解を深めるとともに、現状把握及びデータの蓄積を目的に市内に生息するトンボとチョウを対象として調査しています。調査結果から地域の環境の変化が分かり、今後のさいたま市の都市計画の参考とすることができます。

Q 経験が必要でしょうか？

気軽に参加できます。年に3回程度、専門家による研修会も開催しています。生きものの写真を撮って事務局へ送ってください。同定はしなくてもよいです。

Q 一人で調査をするのでしょうか。

調査仲間ができますし、経験者と組んで調査をすることもできます。

Q 調査結果はどうなるのでしょうか。

調査結果をまとめたものを、さいたま市のホームページにアップし公表します。年度末には、集計結果について専門家から報告があり、さいたま市の環境について学ぶことができます。結果は、さいたま市の基本計画にも反映されます。

Q 申し込みはどうすれば良いのでしょうか？

毎年4月ごろに募集を行いますので、さいたま市役所へ申し込んでください。随時ホームページをご覧ください。
<https://www.city.saitama.jp/001/009/006/p034586.html>

発行 さいたま市環境会議（令和2年9月）

連絡先 さいたま市環境局環境共生部環境対策課水質土壌係

電話番号 048-829-1331 ファックス 048-829-1991

URL <https://www.city.saitama.jp/001/009/006/p034586.html>

さいたま みんなの生きもの調査

一緒に
楽しみましょう！

調査員
募集中

トンボとチョウ
調べてわかる！
さいたま市の環境

「さいたまみんなの生きもの調査」とは

さいたま市内の各所で、トンボとチョウのみを対象に調査を行っています。トンボは幼虫がヤゴと呼ばれ、水中に生活するなど水環境と密接な関係をもっています。また、チョウの幼虫は種ごとに異なる草を食べるなど、植物と密接な関係をもっています。トンボとチョウを調査することで、その地域の水環境や植生を推定することができます。市内9カ所に、誘致施設としてミニトンボ池とプランター（チョウを引き寄せる植物）を設置し観察しています。現在38名の調査員が調査を行っています。

設置風景例



さいたま市環境会議・さいたま市

私たちが見つけた、さいたま市のトンボとチョウ

みんなが
つながりあって
生きている

さいたま市のチョウとトンボだけでもこれだけの種類が生活しています。そのチョウとトンボが生きていくためには、様々ないきものや、花・植物などの自然が必要であり、それは人間も同じです。みんながつながりあって生きていることを「生物多様性」と言います。この調査をキッカケに「生物多様性」について私たちと一緒に考えてみませんか？



ベニシジミ



ハグロトンボ



アジアイトトンボ



オオシオカラトンボ



アオスジアゲハ



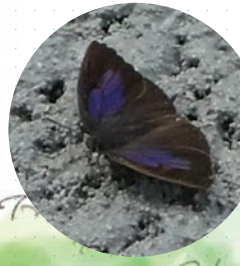
チャバネセセリ



モンシロチョウ



キタテハ



ムラサキツバメ



ヒメジヤノメ



キアゲハの
幼虫



キアゲハ



ショウジョウトンボ



アキアカネ



北山 千賀子さん

生きものの調査員 コメント



株式会社オリジン
斉藤 智さん

私の担当している与野八幡小学校は、誘致施設が校舎の屋上です。他の地区に比べれば、土も植生も限られるというハンディがありながらも、たくさんの生きものが訪れてくれています。先日は、幸運にも調査中にアゲハの産卵に遭遇し、調査員一同たいへん盛り上がりました。また、毎年恒例のブル掃除前のヤゴ救出作戦など、小学校のイベントにも協力しており、昨年度はギンヤンマのヤゴが初めて確認されました。

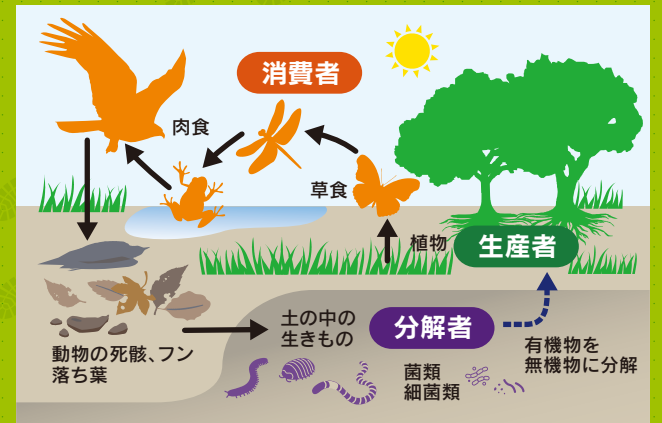
桜区の「株式会社ソリジン」の敷地内にある、誘致施設を担当しています。2016年度から調査を開始し、5年目です。最初のころはトンボやチョウに翻弄されていましたが、目が慣れてくるに従いいろいろな個体を確認できるようになりました。4年間で、チョウ類5科26種、トンボ類5科12種を確認できました。写真をパネルやカードにして市の環境イベントに提供しています。



安部さん

「さいたまみんなの生きもの調査」をキッカケに生物多様性※を考えよう

地球の環境とそれを支える生物多様性は、人間を含む多様な生命の長い歴史の中で、つくられたかけがえのないものです。そうした生物多様性はそれ自体に大きな価値があり、保全すべきものです。そして、私たちの暮らしは食料や水の供給、気候の安定など、生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みによって支えられています。そして、人と生きものはつながりあいながら共に地球上で暮らしているのです。



※**生物多様性**とは 生きもののたちの豊かな個性とつながりのこと。地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり、全て直接に、間接的に支えあって生きています。生物多様性条約では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとしています。（環境省生物多様性ウェブサイトより）